

スポーツ振興課だより

第75回国民体育大会関東ブロック大会の報告

令和2年12月11日（金）～13日（日）および18日（金）～20日（日）と2週に渡り、第75回国民体育大会関東ブロック大会アイスホッケー競技会が開催されました。この大会は1月に愛知県で開催される第76回国体冬季大会の代表権をかけて行われる大会となります。本来であれば、今年度は5月から8月にかけて関東ブロック大会が本県で31競技行われる予定でありましたが、第75回鹿児島国体が延期になったことから今回のアイスホッケー競技会のみ開催となりました。



今大会は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、無観客開催となり、会場入りする監督、選手、役員等全員が2週間前からの体調チェックを行うなど、これまでにない大会となりました。また、当日の会場においても、入口での体温チェックやアルコール消毒など徹底した感染対策が取られました。

本県は前回大会の結果から、少年男子は既に本大会への代表権を得ていたため順位決定戦の試合を行い、成年男子は代表権をかけて大会に臨みました。

成年男子はまずリーグ戦で千葉県、群馬県と対戦し、両試合とも危なげなく勝利し、リーグを1位で通過しました。その後、代表決定戦を山梨県と行い、13対0という結果で勝利したことから、見事に本大会への切符を手に入れました。

少年男子は同じく代表権を持っている、東京都と埼玉県と対戦し、東京都に8対3で勝利、埼玉県に1対5で敗戦という結果でした。



本県を含め、次の都県が第76回国体冬季大会への出場権を獲得しました。

成年男子(通過枠5)

栃木県、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県
少年男子(通過枠4)

埼玉県、神奈川県、東京都、栃木県

参加した監督や選手は、コロナ禍において調整も難しい状況ではありましたが、精一杯、正々堂々と試合に臨んでいました。



令和2年度子どもの運動不足解消のための運動機会創出プラン

アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を活用した運動遊び促進事業

この事業は、新型コロナウイルスの感染リスクに備えた、学校の休業や、スポーツイベントの中止に起因する、子どもの運動不足による体力の低下を解消することを目指し、運動遊びを促進することによって、運動不足の子どもたちのスポーツ活動へのスムーズな復帰を可能とするとともに、日常的にスポーツを行う場を持たない子どもたちが、身体を動かす楽しさを体験する機会を提供するため、（公財）日本スポーツ協会からの受託事業として実施しました。

なお、関係機関、団体に実施希望を照会したうえで、総合型地域スポーツクラブから4団体、競技団体から2団体、これに本会を加え、合計7団体が事業を実施しました。

また、各事業については、子どもたちが楽しみながら体を動かすACPをメニューに取り入れたうえで、各種の体験会等が実施されましたが、主な内容について、次のとおりご紹介します。

【相模原スポーツアカデミー】

体操体験会を実施。参加した子どもたちが、自分の順番が来るまで、他の子がやっているのをしっかりと見るなど、真剣に行っている姿がありました。クラブ会員である子どもたちも一緒に参加し、先輩として体験会に参加した子どもたちにやさしく教えたり、時には集中力が切れた子を高学年の子が注意するなどしながら、楽しく体操を体験しました。



【やまとスポーツマネジメント】

ディスク（フリスビー）を使ったスポーツのアルティメット体験会を実施。講師には現役日本代表選手を招き、アルティメット競技のルールや、ディスクの投げ方など基礎について実践を交



えながら説明した後、親子で相手の胸に投げる練習や、講師が投げたディスクを地面につくまでにキャッチするなど競技に触れる体験をしました。ディスクの動きを予知することがとても難しく、あと少しで取れそうだが取れないという光景が多く見られましたが、体験会終了後、子どもたちからは、「もっとやりたい」、「楽しかった」などの声が多く聞かれました。

【善行大越スポーツクラブ】

トランポリン体験会を実施。ワールドカップ出場経験のある講師を招き、トランポリンは空中姿勢の美しさなどで競うもので、同じ技をしてはいけないことや、2名が合わせて跳ぶシンクロ競技については、跳躍するタイミングを合わせること、どちらかが失敗をした時点で競技が終了となるためミスできないというプレッシャーがあることなどを説明した後、シンクロ競技の模範演技を行いました。演技終了後にはトランポリンを使って足を抱える跳び方や足を開く跳び方、お尻で跳ぶ跳び方などを体験しました。



【相模原フットボールアカデミー】

チアリーディングと親子サッカー体験会を実施。チアリーディングではストレッチからはじまり基本的な体の動かし方など、また、親子サッカー体験会では、ミニコーンを倒すチームと立てるチームに分かれて、最終的にどちらの数が多いかを競うなどゲーム形式でのトレーニングやドリブルを行うなど、汗をいっぱいかきながら、楽しくサッカーと触れ合いました。



【神奈川県レスリング協会】

講師にアテネ五輪銅メダリストの田南部 力氏を招き、オリンピックとしての経験も踏まえ、タックルなどを指導しました。レスリング体験会でしたが、どのスポーツにおいても柔軟性や体幹は必要であると、自宅でもできるストレッチや体幹トレーニングなども行いました。また、参加者が多く、マットをたくさんの子たちが使用しましたが、休憩の際に県立磯子工業高校レスリング部の選手たちがマットの消毒や片付けのサポートをしてくれました。



【神奈川県ソフトボール協会】

日立女子ソフトボールの選手と一緒に基礎トレーニングを含めた、投げ方や打ち方などを実施。ソフトボールは周囲からの指示と幅広い視野が重要になることから、チームを組んでプレーする人と指示を出す人に分かれ、相手の状況を観察しながらプレイヤーに全員で指示を出して勝利を掴むという方法で練習しました。選手からは、相手の様子をしっかりと観察することが勝利につながるとアドバイスをしていました。



【本会】スポーツ少年団関係では、バレーボール交流会を実施。講師に元実業団の選手を招き、



練習方法などについて指導した後、各チームに分かれて様々なチームと試合を行いました。試合には講師チームも参加しましたが、子どもたちに苦戦する場面もあり、会場からは大きな拍手が巻き起こり盛り上がりました。

また、県立スポーツ会館では、空手道体験会、卓球体験会、ダンス体験会、バスケットボール体験会、県立スポーツセンターでは、スポーツキッズ体験会、親子スポーツ体験会、ハンドボール体験会、卓球体験会、バスケットボール体験会、ダンス体験会、バドミントン体験会、親子体操体験会、テニス体験会をそれぞれ実施しました。

コロナ禍の影響については、先を見通すことが困難な状況にありますが、これからも、積極的に子どもたちがスポーツをする機会を設けていきたいと考えています。